マメシンクイガ

幼虫は体長 10 ㎜内外で乳白色、老熟すると橙赤色となる（写真１）。成虫は体長６㎜ 内外、開張15㎜、前翅は暗褐色の不明瞭な班紋がある（写真２）。

年１回の発生である。土中において土繭の状態で越冬し、翌年の８月頃羽化が始まる。羽化した成虫はダイズの莢上に産卵する。ふ化した幼虫は莢内に侵入し発育中の子実を食害し、侵入後２～３週間で莢内から脱出する。脱出した幼虫はそのまま土中で土繭となる。食害は子実の縫合部に添って溝状に進み、虫糞が子実に残り、脱出孔は半円形で莢の縫合部近くに多い（写真３）。

本県の成虫出現盛期は８月下旬～９月上旬で、幼虫の発生盛期は９月上旬である。連作ほ場で多発する。開花４週間後に薬剤散布を行うと効果が高い。前年多発したほ場では２回目の防除を１回目の 10 日後頃に行う。

写真１　莢脱出中の終令幼虫
（会津若松市門田）

写真２　マメシンクイガ成虫

写真３　被害子実と脱出孔